

顎関節症

保健班：尾崎果南 山口和奏 山田梓月

1. はじめに

研究員3人のうち、2人が顎関節症の症状を持ち、また現在、女性や若者の患者が増えている背景を探りたいと思い研究を始めた。

顎関節症の実態を知るために高津高校の生徒を対象としたアンケートを実施した。

2. アンケート内容

- ① 高津高校2年文理学科の生徒を対象に顎関節症の疑いがあるかを判別するための項目を7個用意する。
- ② 顎関節症によって起こりうる症状の有無について問う。
- ③ ①で当てはまった項目数ごとにグループ分けし、その中で②で問うた顎関節症の症状をどれだけの人が発症しているか、割合を出した。(なお、項目数ごとのグループ分けは0個、1個、2個、3個で分け、4個以上当てはまる人は顎関節症の疑いが高いので1グループとみなし、合計5つのグループに分ける。)

3. アンケート結果

%	0	1	2	3	4～
ストレス	40	50	57	100	62
頬杖	46	82	70	50	80
姿勢が悪い	55	57	57	50	80
食いしばり	11	18	13	0	38
アレルギー体質	26	38	43	50	50
強くかむ	5	4	13	25	13
体の柔軟性	21	7	17	0	25
便秘	16	25	13	25	38
喉に違和感	20	7	13	25	38
運動神経がいい	5	14	17	0	13
肩がこる	38	46	57	50	50

アンケートの結果、食いしばりをする、アレルギー体質である、のどに違和感がある、の3つの項目が、顎関節症と特に関係があるという結果がでた。そこで私たちはこの結果についての信頼性を高めさらに研究をすすめるために矢田生活協同組合医療センター

口腔外科高山賢一先生への質問を実施した。

4. 質問内容と返答

①なぜ食い食いしぼりが関接に影響をもたらすのか。

→常に筋肉に力が入っている状態になるので、筋肉が休まる時がなく、咀嚼筋の筋肉痛が起こり、それが顎関節の痛みとして現れる。

②のどに違和感があることと顎関節症との関係はあるのか。

→明確な答えが得られなかった。

③アレルギー体質であることと顎関節症との関係はあるのか。

→アレルギーは免疫系の暴走状態であり交感神経とも関わりがあるため、交感神経と強く関係がある顎関節症と関係がないとはいえないが、強い因果関係はないと思われる。

私たちは明確な答えを得られなかった②の項目について調査するため、初めのアンケートでのどに違和感があると答えた生徒にそれがどのような違和感であったのか、再度アンケートを実施した。

5. 予想

顎関節症はストレスと大きく関係していて、のどの違和感もストレスからくるものだと考えた。また、女性や若者に多いという共通点から私たちは顎関節症と関係があるのどの違和感はヒステリー球ではないかと予想した。

6. アンケート結果

ヒステリー球のようなのどの違和感ではなく、風邪に時などにのどに感じるいがいが感を訴える人が多かった。

そこで、たくや整骨院の鈴木拓矢先生に風邪との関係について尋ねたところ、食いしぼりが起こるとき、交感神経が働きすぎて副交感神経が働く余地がなくなる。副交感神経は損傷した細胞を修復させる効果があり、免疫力を活性化させるが、その副交感神経が働かないことにより、風邪になりやすい可能性がある。

7. 結果

ストレスが大きな要因であり、それにうまく対処することが重要だと考えられた。